

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

## 事業名【新】低コスト・省力化人工林施業体系構築事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-1111（内4385）

E-mail : c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 900千円 (前年度予算額： 0千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	900	0	0	0	0	0	900	0
決定額								

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・人口減少社会が進む中、限られた予算で再造林を推進するためには、再造林費用の省力化・低コスト化を図ることができる低密度植栽を進める必要がある。
- ・既存のスギ、ヒノキ人工林施業体系は芯持柱材や大径材生産を目的として、植栽本数3,000本/haにおける標準的な保育や間伐に関する事項を示したものであり、並材生産を目的とした、植栽本数2,000本/ha以下の低密度植栽では適用し難い。
- ・並材生産を目的としたスギ、ヒノキ人工林の低密度植栽に対応した施業体系を構築する必要がある。

## (2) 事業内容

並材生産を目的としたスギ、ヒノキ人工林の低密度植栽に対応した施業体系の構築するため、生産目的・伐期齢等の検討、調査、研究を実施し、その結果を反映させた施業体系の構築を図る。

### (3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

県が推進する低コスト施業にかかるスギ、ヒノキ人工林の低密度植栽に対応した施業体系を構築するものため。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	696	先進事例調査、製材工場等需要者ヒアリング、打ち合わせ等の旅費
需用費	174	消耗品費
役務費	30	
合計	900	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

(1) 災害に強い循環型の森林づくり

(イ) 100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり

### (2) 国・他県の状況

国は、「スギ・ヒノキ・カラマツにおける低密度植栽のための技術指針」として低密度植栽、初期保育における技術指針のみを示すにとどまっている。

広島県は、低密度植栽育林技術体系を収穫予想表、密度管理図等から整理したものを示している。

秋田スギの低密度植栽に対応した新施業体系の確立の研究が令和2年度から6年度にかけて実施されている。

### (3) 後年度の財政負担

令和12年度まで事業実施が必要。

### (4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県

2) 妥当性：県が推進する低コスト施業にかかるスギ、ヒノキ人工林の低密度植栽に対応した施業体系を構築するものため妥当。

# 事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

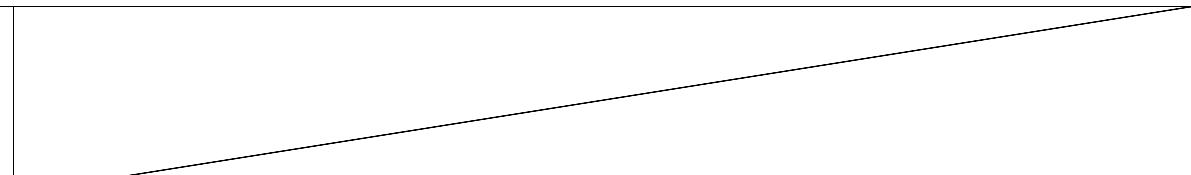
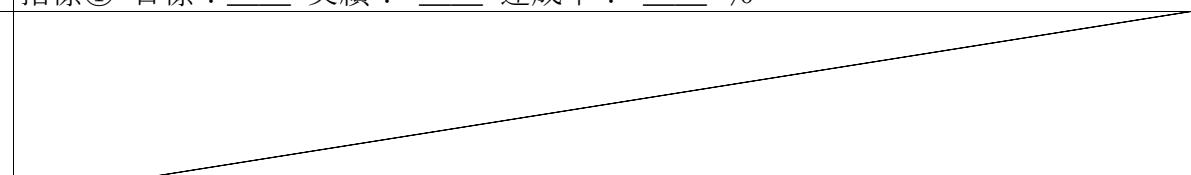
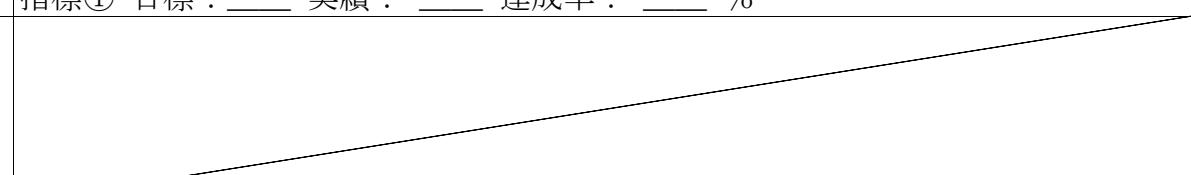
令和12年度までに、一般材生産を目的としたスギ、ヒノキ人工林の低密度植栽に対応した施業体系の構築。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R )	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12 )	達成率
①スギ、ヒノキ人工林の低密度植栽に対応した施業体系の構築	-	-	-	-	施業体系の構築完了	-

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (これまでの取組内容と成果)

令和4年度	
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	人口減少社会が進む中、限られた予算で再造林を推進する必要があるため、再造林費用の省力化・低コスト化を図ることができる低密度植栽の重要性は増している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価)	

### (今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

限られた職員体制の中、データを迅速かつ効率的に収集するため、調査業務の外部委託等を実施し、事業を推進する必要がある。

### (次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	